



い き い き

小 富 士 っ 子



R 6 学校便り No. 6

令和 6. 6. 2 1

四国中央市立  
小富士小学校

## 小学校の階段



7 / 1 (月) ~ 7 / 5 (金) に、中学生が職場体験をするために、小富士小学校へ来ます。昨年度も同じ時期に3名の中学生が職場体験に来ていました。ちょうど小富士小学校の卒業生だったので、久しぶりに見た小富士小学校の印象を尋ねてみると「体育館がこんなに狭かったかなあと思った。」や「階段一段一段の高さが低くて、びっくりした。」などの感想を聞いたことを、先日、「教頭先生が階段の段差が低くて、躓きそうになる。」と話しているのを聞いて思い

出しました。確かに小学校の階段の段差は、一般のそれと比べて少し低いです。小学生は大人と比べて体のサイズが小さいのだから、当然と言えば当然です。しかし逆に考えると、**階段の段差は、使用する者の体の大きさに基づいて決められている**ことが分かります。このような「人間に合わせた物づくりのための技術や学問」を**人間工学**と呼んでいます。そういえば、パソコンや電卓のキーの大きさってちょうど指の大きさくらいではないですか。電卓のキーが小さすぎたり、大きすぎたりして使いづらかった経験はないでしょうか。椅子の座面や背もたれは、絶妙に曲がっていますよね。物の大きさや形（デザイン）などが**ちょうど良い加減**なのは、**人間工学**のおかげです。せっかく人間に合わせて物は作られているのだから、正しく使いたいものですよね。児童が階段を何段か飛ばして下りてくるのを見かけることがあります。危ないと感じますし、実際、児童がけがをしてしまった経験もあります。段を飛ばして上り下りした結果、けがをするなどということが起こるのは、**人間工学**によって安全とされている段の高さを軽んじたせいかもしれません。しかし、段を飛ばして通行したくなる理由も分かります。小学校は、年齢で数えると6歳も差がある子どもたちが一緒に生活しているので、階段の段差は、おそらく小学生の平均的な体格に合わせているか、低学年に合わせています。そうすると、高学年の児童には使いづらい高さになるので、「段飛ばし」したくなるのだらうと思います。個別に使うものならば、使用者に合わせて作れば良いですが、みんなで使うものを全員に合わせて作ったり、**ユニバーサルデザイン**を実現したりすることは、なかなか難しいようです。**人間工学**は、まだまだ研究の余地のある学問ですね。私たちも、より多くの人々がより良く生活できるように工夫できることを考えたいですね。そして、多少不便でも安全優先の使い方をしないといけませんね。だから私は、**階段の段は、飛ばさない**ように気を付けています。



## なかま集会 (フリー参観日)

6月20日(木)には、フリー参観日の3時間目に「なかま集会」を行いました。「小富士小学校にどんな言葉をあふれさせたいか、傷つく言葉が出たとき、自分はどうするか」をテーマに話し合いました。



子どもたちからは、素敵な言葉がいっぱい出て、小富士小学校がそれらの言葉であふれるようにしたいと思います。フリー参観日では、給食や昼休み、掃除の時間など授業以外の時間も見ていただきましたが、授業だけでは分からない子どもたちの一面も見えたのではないかと思います。ご参観、**ありがとう**ございました。

ホームページもご覧ください。 <https://kofuji-e.esnet.ed.jp/>